

第2回 仙台医療介護連携の会

ご報告

開催日時：平成26年1月21日(火)19:00~21:00

会場：仙台サンプラザホテル

仙台医療介護連携の会とは

<経緯>

宮城県第三期地域医療再生計画に基づき、25年度より3年間「介護との連携による在宅医療の推進と普及啓発事業」を実施することとなりました。当クリニックはこの事業について事業提案し、採択するに至りました。本事業を実施し、在宅医療を推進していくためには、市内の医療・介護の団体と協力して事業を推進し、終了後も引き続き継続できるものを作り上げていく必要があると考え、各団体に呼びかけて集まっていたきました。

<本会議の目標>

昨年度明らかになった課題を含めて、解決策を改めて提案させていただきます。各団体等で行き組まれている内容を共有し、協力体制を作って真に医療、介護が包括的に提供できる体制を作ることを目的としています。2年間の取り組みを通して、行政へ政策提言を行うことができるようまとめ合わせて宮城県地域医療計画に掲げられている「在宅看取り率30%」を目指します。

構成委員 20名

仙台市医師会3、仙台歯科医師会1、仙台市薬剤師会2、宮城県看護協会1、宮城県訪問看護ステーション連絡協議会1、宮城県ケアマネジャー協会1、仙台市地域包括支援センター連絡協議会1、仙台市老人福祉施設協議会1、宮城県老人保健施設連絡協議会1、宮城県認知症グループホーム協議会1、仙台介護サービスネットワーク1、宮城県病院協会3、学識経験者2

オブザーバー8名

行政(宮城県(医療2・介護2)2、仙台市(介護2・障害2)2)

内容

【情報提供1】宮城県より

地域医療再生計画について

医療整備課

地域包括ケア体制構築に向けた取組

長寿社会政策課

【情報提供2】仙台市より

仙台市の認知症施策と医療と介護の連携の取組

仙台市介護予防推進室

【グループ討議】 テーマ「これからの私たちに必要な共通認識」



討議の中で出てきた課題と「解決の手がかり」 抜粋

「課題」

現在の地域包括支援センターは、弱体である。今の人員体制でこれ以上進めていくことは難しい。

医療と介護の連携を進めるコーディネーターがほしい。行政にはもっとバックアップしてほしい。

紙切れ一枚の情報は足りなすぎる。もっと、蜜に連絡をとってほしい。

医師1人でいくつも包括圏域を担当しており、負担が大きい。

認知症かかりつけ医、サポート医などの先生方はどこにいる？情報が無い。

特別養護老人ホームで看取するための体制が不十分である。

認知症高齢者支援には、段階をつけたステージ作りが必要。どのステージでも支援できる体制を作りたいが・・・

認知症高齢者に対して、病院としても出来ることは何か。研修のご案内だけでは響かない。

各団体で取り組まなければならない課題はあるが、解決できていない。

具体的だった言葉

「相互理解」の範囲から「相互活用」に。医療職の適正配置と各地域で各職種の窓口明確化を図る。

スムーズな本人情報の共有ができること。

現在の地域包括単位で、サービス担当者会議の積み重ねをしてい

認知症の高齢者を地域で見守る体制作りは急務！MCI(軽度認知障害)の市民啓発の段階へ。

「解決の手がかり」

地域の中に、各職種の窓口になるような人の配置を。中途半端なコーディネーターでは医療と介護の垣根は越えられない。

一つのやり方をとる必要はないのではないか。地域の特性で医療を巻き込める形を作れないか。

これからの時代、80歳以上などの高齢者のお元気で何か？のスクリーニングができるようなシステムがほしい。

グループホームでは、医療職から学び、多職種協働でアプローチすることで看取りまで対応できるようになった。介護職も家族の気持ちの変化に対応するため何度も話し合いを行う。ただ、最後は医師からの説明が必要。家族の覚悟を決めてもらうために。

薬剤師は、使用薬により起こりうる症状について提案できることについての研修会を始めた。もっと他の会にもアピールしたい。

認知症の早期発見のためには、特にMCIの段階からの市民啓発が必要。もっと踏み込んだ体制作りをしていきたい。

障害施策の分野についてももっと知ってもらおう。区役所が窓口になっているが、活用を！